

一日も早く実施を

25年度実施予定／教育長



みやち ようこ 議員

問 ① 学校給食は給食法が改定され、当初の「栄養補給」に加えて、「食育」が重視された。

以前、給食は「親が楽になる」とか「弁当こそ親の愛情だ」等と給食への古典的な考え方も聞かれたが、給食本来の目的は、子どもたちが食への正しい知識を学び、健康な体を作る源は食であることを学んで貰うこと。また地産地消で地域の産物を知り、地域への愛着と生産者への感謝の

気持ちを持って貰う事も加わった大事な教育である。教育長の考えをお尋ねする。

② 地産地消の学校給食で町おこしや地域の振興に役立っている自治体がある。福井県の小浜市は「食のまち作り条例」をつくって、今では全国の先駆けとして視察者が絶えないそうだ。また南国市もお年寄り達が作っていた棚田米を利用して、教室でご飯を炊くなど、美味しい給食を実施し、地域の振興をうながす取り組みとして全国に名をはせた。

学校給食は、安全で安心、豊かな給食でなければならぬ。子ども達に黒潮町で取れたお米、ニフヤ椎茸等の野菜、伊田や鈴など町内の港に水揚げされた新鮮な魚、特産品のラッキョウ等を食材にした、こんな給食を一日も早く大方

地域の小学校でも実施して欲しい。

利益が優先される民間委託ではなく、教育として町の運営で行ってこそ安全、安心で豊かな学校給食が実施できる。また地域振興にも役立つ給食は民間委託ではできない。民間委託をすることには反対だかどうか。

答

坂本教育長

大西町長

① 学校給食は教育の一環である。近年、食生活を取り巻く社会環境の変化などにもない、子どもに偏った栄養摂取や不規則な食事などの生活の乱れ、肥満や過度の痩身などがみられる。成長期にある子どもにとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせない。学校給食は教育的な意義も非常に強く、食事の重要性や楽しさを理解させ、

集団行動やマナーなどを身に付けると共に、食べ物を大事に、生産に係わる人達に感謝する気持ちも育む。また地域の食材を使うことによつて、地域の産物、食文化等を理解し、地元を誇りを持っていくことにもつながると考えている。

② 検討委員会の結果に添って、業務委託という形で調理部門、配送部門は民間委託にする必要があると考える。

③ 24年度に給食センターを建設し、25年度実施の予定。

が急で、障害者やお年寄りの方たちには難しい所が目についた。また住民の方からは避難場所が遠すぎるので近くの山に道を付けて欲しい等々、様々な要望があった。

区長さんを先頭に自主防災組織で、地元の避難場所等を早急に見直し、点検を行うよう、町でお願いする必要があらうと思うがどうか。その上で早急に手直しが必要なところは補正でも組んで取り組むべきと思うがどうか。

答

松田総務課長

今議会であげている300万円の補正予算と、繰越明許費2100万円、漁業集落整備事業等を活用して、まず文教施設の避難道、避難場所から見直し、点検をしていく。

また地域の避難道、避難場所等については、区長会があるのでそこで提案をしたい。

防災対策

避難道の再点検を

まず文教施設から
総務課長

問

東日本大震災の未曾有の被害を見て、黒潮町でも早急に避難道、避難場所の再点検、見直しが必要だ。私が見てきた避難道だけでも、手すりや石段が壊れて危ない所、階段